

## 平成27年度 社会福祉法人ゆたか会事業報告

平成27年度の事業計画は、社会福祉法の改正を視野に入れ、社会福祉法人ゆたか会がより一層公益法人としての使命を果たすための事業計画としました。社会福祉法の改正は、平成28年3月31日に国会で承認され、4月1日から施行されています。以下に具体的な事業内容について報告いたします。

### ◎ 社会福祉法人制度改革関係

平成28年度より実施される社会福祉法制度改革に向け、本年度はその準備の年と位置付け、2014年7月4日に厚生労働省がとりまとめた「社会福祉法人制度の在り方」と2015年2月に社会福祉審議会福祉部会がとりまとめた「社会福祉法人改革」に沿って検討を行いました。

#### 1 公益性・非営利性を高める為の経営組織の在り方の見直し（理事会、評議員会、運営協議会等）

平成26年度並びに27年度の理事会並びに評議員会において、改正内容を説明し改正後の理事会評議員会の在り方について検討いたしました。

#### ※各事業所の責任者による運営会議の開催

これまで、各事業等で行われていた運営会議を統括し、法人全体の管理者会議として位置づけ、予算の執行状況を把握し各事業間の連携を図り経営の安定化に努めました。

#### ※法人事務局の設置運営の検討

事業規模の拡大にともない、法人の機能強化が必要になってきました。これまで2名であった事務職を3名に増やし、新たに事務課長のポストを設け、今後の事務局体制の強化に努めることとしました。

#### 2 運営の透明性の確保

本理事会終了後、本年6月にリニューアルする本会のホームページに必要な資料を公開します。また、全国社会福祉協議会、医療機構等、公益財団等への公開も計画しています。

#### 3 適正かつ公正な支出管理

適正かつ公正な支出管理において求められているものは①適正な役員報酬、②関係者への特別の利益供与の禁止と関係当事者との取引内容の公表、③会計監査人の設置を含む外部監査の活用、とされています。本年7月に、社会福祉法改正に伴うガイドラインが示される予定です。そのガイドラインに沿って各種手続きを行います。

#### 4 地域における公益的な取り組みの責務

現在、兵庫県社会福祉法人経営者協議会で検討している、社会福祉法人連携事業について加西市でも実施できないか、加西市社会福祉協議会と連携をとりながら検討しています。また、どっこいしょにおいては、下若井町の区長、民生委員等と共に、石川県の「シェア金沢」に見学に行き、障害、高齢、保育といった垣根を越えた地域支援の在り方について、地域の方々と一緒に検討を行いました。また、下若井町に新たに認知症カフェが誕生し、どっこいしょも運営に協力しています。

## 5 内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下

管理者会議で検討する予定にしていたのですが、範囲が広く集中審議が必要ではないかとの意見から、本年新たに、管理者会議とは別に企画会議を設け引き続き検討することとしました。

### ◎ 新規事業

※ 障害の重い人たちのグループホームの運営。

フラワーシルバーハイツを購入し、以下の事業規模で国庫補助の申請をあげましたが、前回の理事会でご報告いたしました通り、私たちが提案した事業は補助事業の対象とはならない、という残念な結果になりました。本年度、補助事業ではなく当法人の単独事業として再度計画をあげ、本年度実施に向け検討を開始しました。

#### ○ 事業規模

- 1 障害の重い人たちのグループホーム（6人ユニット、8人ユニット、計14名）
- 2 生活介護事業の実施（20名）
- 3 法人単独の施設整備事業とする

※ 障害の重い人たちの就労の場の確保

試行的に実施している水耕栽培は、障害の重い人たちの働く場として有効である事が事実となりました。これを受け、本格的な水耕栽培のビニールハウスを2棟、設置したいと考えていましたが、前記のグループホームと並行して行うには、人的確保が難しいという結論から今回は、見合わせることにしました。今後は、広い意味で「農と福祉の連携」を視野に入れ、地域との協同事業として取り組めないか検討したいと考えています。

※ 泉中学校校区の高齢者の在宅支援の強化

泉中学校校区には「どっこいしょ」がありますが、校区の北西の端にあり、校区全体をカバーする事ができないのが現状です。また、どっこいしょの経営において、要支援の方々のニーズが多く、介護度が低下し収入の減収につながっています。そこで、泉中学校の近くに新たに小規模多機能型居宅介護事業と要支援の方々の受け入れ先としてのデイサービス事業の検討を行いました。新たな事業として実施することはできませんでした。課題であった報酬減に対する対応としては、加算や職員育成等の強化を図り利用者数の増員に努めました。

## 平成27年度障害者支援施設希望の郷事業報告

### 1. 全体総括

平成27年度は昨年度に引き続き「利用者それぞれの思いの実現」を軸に、質の高い個別支援計画の作成と実践、生活介護事業の充実と施設生活における質向上を重点において取り組んだ。個別支援計画ではサービス等利用計画との連携を強化しながら質の高い計画の作成に取り組み、期間中は目標の達成を意識できるようチェックの機会や支援の時間を提供することにより、前年以上の成果が得られたと感じている。引き続き計画と実践のスキルアップを図り、利用者の生活の質向上に貢献していきたいと考えている。

### 2. 施設入所支援事業

日々の生活において、個々の利用者が主体的かつ質の高い生活を送れるよう、個別支援計画に基づいて、食事、入浴、排泄、就寝など生活全般のサービスを提供している。

全体的には高齢化、重度化の傾向にあり、介護度が上昇している。日常のサービスのみならず、行事、余暇等も同様で、これまでの方法では立ちいかなくなっている面があり、施設として利用者に支援していくべきことを精査していかねばならない時期に来ている。利用者のニーズを改めて洗い出し、日常の支援体制の見直しを図っていくことが求められる。

### 3. 生活介護事業

日中の活動を通して個々の利用者が充実した生活を送れるよう支援を実施した。また、作業のリフレッシュを目的に、各班の中で数グループに分かれて日帰り外出を実施した。

作業については、作業工賃の向上、多くの利用者、多くの時間が取り組める、生産活動に従事できるようその拡充を図った。利用者がやりがいを持って取り組めるよう引き続き支援していく。また、作業以外では、個々の利用者に応じて創作活動や散歩、リハビリ的な活動を実施している。

### 4. 短期入所・日中一時支援事業

短期入所事業は定員8名、日中一時支援事業は定員4名で運営。地域で生活する障害者に対し、本人及びその保護者が安心して在宅生活を継続できるよう、日中活動あるいは生活全般を通して必要な支援を行った。

一般の利用や、特定利用者の長期利用のほか、虐待ケースの緊急受け入れなども行った。27年度は長期利用者が定員枠の約75パーセント近くを占めたため、特に休日においては一般の利用希望を断らざるを得ない状況がしばしば発生した。利用者にとって必要な支援が必要な時に受けられる施設づくりを目指す意味でも長期入所者の解消は大きな課題であると考え。また、利用者保護者の声を通して、親亡き後の本人の生活を不安視している声が多く聞かれるようになっている。

### 5. 共同生活援助のバックアップ事業

グループホームについては定員の4名が利用している。

利用者が地域の社会資源を活用しながら、個々の生活ペースを大切に、質が高く心やすらぐ生活を送れるよう支援している。質の高い生活を提供できていると評価できる一方、個別外出や、社会参加スキルの向上などについては今後より一層支援していくべきところである。

現在、シルバーやパートなどを活用しながら平日、休日の支援を実施しているが、希望の郷となごみ、さらに新たな事業所を展開していくためには、特に夜間の支援に入れる職員を中心とした、人材の確保が大きな課題となっている。

平成27年度 短期入所事業実績

合計表

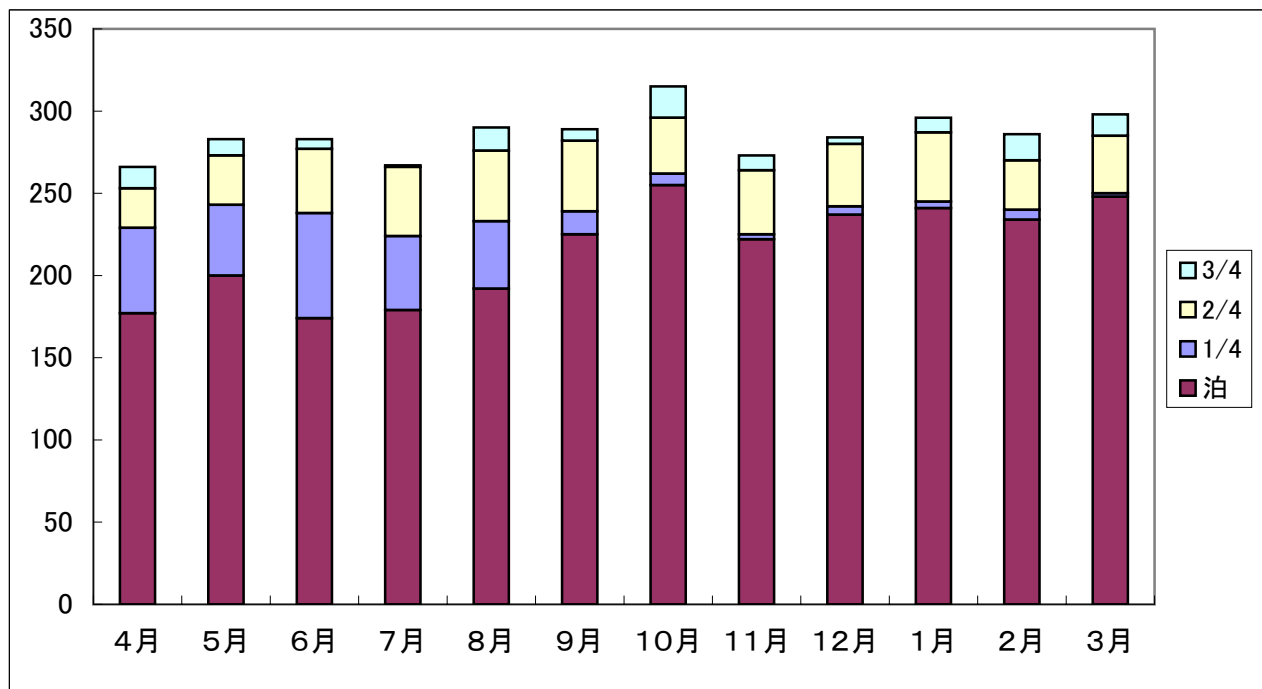
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	泊:日中
泊	177	200	174	179	192	225	255	222	237	241	234	248	2584	75.3%
日中	89	83	109	88	98	64	60	51	47	55	52	50	846	24.7%
1/4	52	43	64	45	41	14	7	3	5	4	6	2	286	8.3%
2/4	24	30	39	42	43	43	34	39	38	42	30	35	439	12.8%
3/4	13	10	6	1	14	7	19	9	4	9	16	13	121	3.5%
計	266	283	283	267	290	289	315	273	284	296	286	298	3430	100.0%
平均	8.87	9.13	9.43	8.61	9.35	9.63	10.16	9.1	9.16	9.55	9.86	9.61	9.37	

知的

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	泊:日中
泊	173	195	174	169	186	222	253	217	230	234	230	242	2525	78.8%
日中	76	71	95	75	83	53	44	35	39	33	36	41	681	21.2%
1/4	48	40	60	45	41	12	4	2	5	2	4	2	265	8.3%
2/4	15	21	29	29	30	34	22	24	30	24	17	26	301	9.4%
3/4	13	10	6	1	12	7	18	9	4	7	15	13	115	3.6%
計	249	266	269	244	269	275	297	252	269	267	266	283	3206	93.5%
平均	8.3	8.58	8.97	7.87	8.68	9.17	9.58	8.4	8.68	8.61	9.17	9.13	8.76	

児童

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	泊:日中
泊	4	5	0	10	6	3	2	5	7	7	4	6	59	26.3%
日中	13	12	14	13	15	11	16	16	8	22	16	9	165	73.7%
1/4	4	3	4	0	0	2	3	1	0	2	2	0	21	9.4%
2/4	9	9	10	13	13	9	12	15	8	18	13	9	138	61.6%
3/4	0	0	0	0	2	0	1	0	0	2	1	0	6	2.7%
計	17	17	14	23	21	14	18	21	15	29	20	15	224	6.5%
平均	0.57	0.55	0.47	0.74	0.68	0.47	0.58	0.7	0.48	0.94	0.69	0.48	0.61	



利用者の状況

28年3月31日現在

希望の郷

定員 施設入所支援 50名 生活介護 60名

(1) 年齢別・性別の状況

性別	年齢	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	計	平均年齢
男	入所	0人	0人	9人	13人	4人	3人	1人	1人	31人	46.5歳
	生活介護(通所)	3	4	2	0	0	0	1	0	10	27.6
女	入所	0	0	1	8	6	4	2	0	21	53.0
	生活介護(通所)	0	1	1	0	0	0	1	0	3	43.5
計	入所	0	0	10	21	10	7	3	1	52	49.7
	生活介護(通所)	3	5	3	0	0	0	2	0	13	35.5

(2) 在所期間の状況

性別	年数	1年未満							計	平均在所期間
		1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上			
男	入所	0人	2人	1人	4人	0人	1人	1人	31人	19年5ヶ月
	生活介護(通所)	0	7	0	0	1	2	0	10	6年9ヶ月
女	入所	0	3	2	0	3	1	1	21	16年7ヶ月
	生活介護(通所)	0	0	1	1	0	1	0	3	13年3ヶ月
計	入所	0	5	3	4	3	2	3	52	18年0ヶ月
	生活介護(通所)	0	7	1	1	1	3	0	13	10年0ヶ月

(3) 出身市町 ( ) 内は生活介護のみの利用者

加西市	15名(7名)	宝塚市	2名	尼崎市	3名	三木市	4名	明石市	2名
西宮市	2名	伊丹市	2名	姫路市	5名(2名)	神戸市	3名	加東市	1名(1名)
高砂市	(1名)	加古川市	3名	小野市	1名(1名)	豊岡市	1名	西脇市	1名(1名)
たつの市	1名	猪名川町	1名	多可町	4名	神河町	1名		
								計	52名(13名)

(4) 障害支援区分 ( ) 内は生活介護のみの利用者

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均区分
男				7名(3名)	4名(5名)	20名(2名)	5.4(4.9)
女		(1名)	1名	3名	7名	10名(2名)	5.2(4.6)
計		(1名)	1名	10名(3名)	11名(5名)	30名(4名)	5.3(4.7)

## 平成 27 年度 医療受診回数報告書

### ☆通院

	件
内科	49
精神科	128
耳鼻科	9
眼科	15
小児科(てんかん発作)	4
外科	11
皮膚科	91
泌尿器科	51
婦人科	0
歯科	80
口腔外科	5
緩和ケア外来	0
整形外科	29
リハビリ	78
神経内科	7
脳外科	1
合計	558

### ☆入院

	件
内科	0
神経精神科	2
整形外科	1
合計	3

・相談支援事業所はんどでは、北播磨圏域在住者・加西市内の入所施設入居者等で希望される方を対象に、計画相談支援・障害児相談支援を実施。

・平成27年度においては、主に希望の郷利用者と、「にじいろ」(平成27年7月1日オープン)のみを利用する児童を対象に、障害児相談支援を行った。

・サービス等利用計画の作成状況については【表1】、各ケースの支援方法については【表2】のとおりとなっている。

【表1】

利用者数		障害者				計	障害児 三木市	合計
		希望の郷	その他					
		入所・通所	加西市	加東市	圏域外			
利用者数		59	1	2	1	63	21	84
4月	新規					0		0
	モニタ	2				2		2
	更新	2				2		2
5月	新規					0		0
	モニタ	2		1		3		3
	更新	1				1		1
6月	新規	3				3	7	10
	モニタ	3		1		4		4
	更新	3				3		3
7月	新規	5				5	13	18
	モニタ	3				3		3
	更新	4				4		4
8月	新規	3				3	1	4
	モニタ	2	1			3	1	4
	更新	4				4		4
9月	新規	1				1		1
	モニタ	4				4	4	8
	更新	11				11	2	13
10月	新規					0		0
	モニタ	3				3	7	10
	更新	1				1	2	3
11月	新規				1	1		1
	モニタ	2		1		3	3	6
	更新	2				2		2
12月	新規					0		0
	モニタ	1		1	1	3	3	6
	更新	2				2	1	3
1月	新規					0		0
	モニタ	7			1	8	2	10
	更新	3				3		3
2月	新規					0		0
	モニタ	1			1	2	2	4
	更新					0	1	1
3月	新規					0		0
	モニタ	2				2		2
	更新	1				1	13	14

【表2】 ※希望の郷入所者においては、兵庫県広域で受け入れている。

	訪問	来所	電話・FAX・メール・郵送	関係機関	サービス調整会議等
4月	7		4	12	5
5月	7	1	3	6	
6月	18	1	2	16	1
7月	26	1	10	22	3
8月	14	1	5	32	
9月	20	3	10	24	3
10月	27		4	17	2
11月	13	1	3	5	
12月	18		1	9	2
1月	16	4		4	4
2月	13	2	1	3	1
3月	35	1	2	11	1
計	214	15	45	161	22



# 平成27年度 加西市障がい者（児）相談支援センター事業報告資料

## 1 相談件数について

### (1) 相談件数の推移

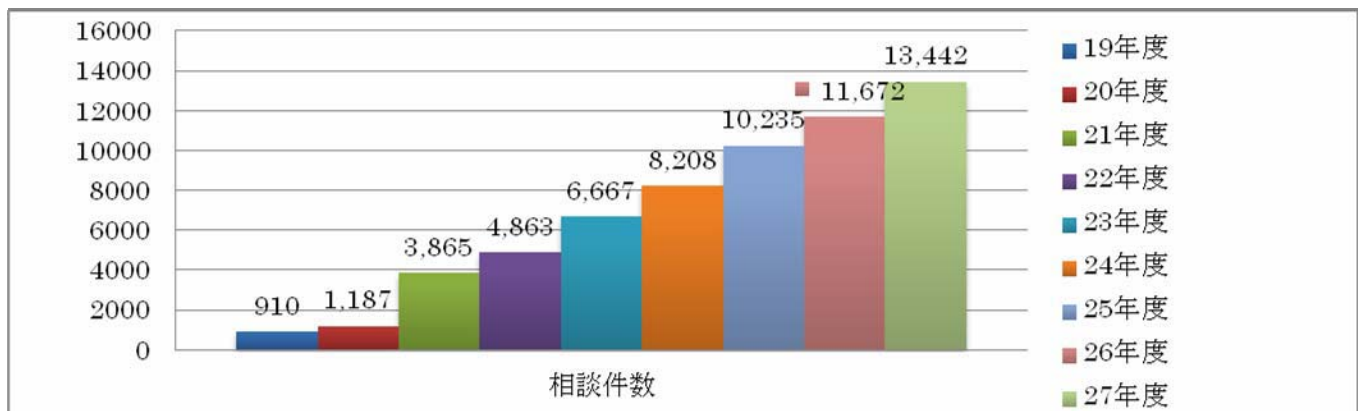
平成19年の2月から相談支援事業が開始され、下記グラフのとおり、年々相談件数は増加しており、今後も相談件数の増加が予想される。平成27年度においては13,442件あり、月平均1,120件を超えた。平成28年度についても増加することが予想され、14,000件程度になることが予想される。

相談件数について（延件数）

単位：件

項目	件数								
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
相談件数	910	1,187	3,865	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672	13,442

(件)

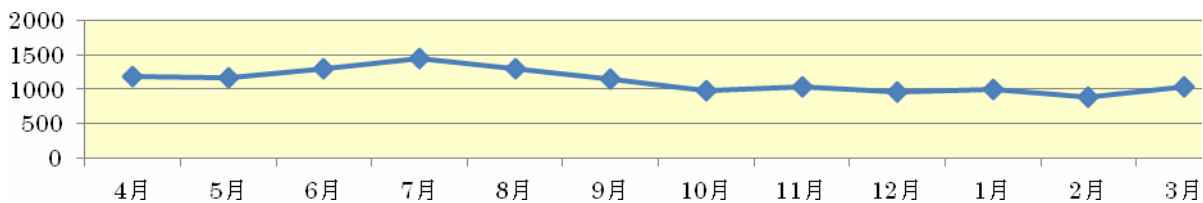


### (2) 月別相談件数の状況

月別相談件数（27年度）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,183	1,167	1,296	1,452	1,299	1,154	982	1,032	957	994	888	1,036

(件)



### (3) 相談延人数の内訳

三障害では「精神」が470人、「知的」が464人、「身体」が275人と精神が一番多く、次いで知的、身体の内訳となっている。

延人数について

単位：人

項目	延人数	身体障害	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	その他
障害児	150	11	10	90	0	31	0	8
障害者	1,264	264	32	374	470	22	4	98

計	1,414	275	42	464	470	53	4	106
---	-------	-----	----	-----	-----	----	---	-----

## 2 個別の相談件数について

### (1) 相談方法別件数の推移

特に電話、訪問、来所相談、同行が増加傾向にあり、電子メールでの相談も多くなってきている。

相談方法（延件数）

単位：件

項目	件数								
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
訪問	118	181	247	413	511	706	1,200	1,521	1,697
来所相談	267	234	343	418	501	595	923	1,537	1,673
同行			38	55	61	90	117	166	350
電話相談	467	667	848	720	1,495	1,619	4,052	5,213	7,271
電子メール	12	99	76	162	207	262	356	782	679
FAX	0	0	0	0	0	0	36	47	45
個別支援会議	39	41	56	55	106	101	163	155	148
関係機関			2,056	2,739	3,670	4,802	3,357	2,225	1,538
個別支援その他	0	10	201	301	116	33	31	26	41
合計	864	1,191	3,865	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672	13,442

### (2) 相談内容別件数（障害別）

特に就労に関する内容が多く、次いで在宅サービス・日中活動となっており、生活していくための金銭確保と日中の行き場を求める相談が多くあり、それに必要な事業所などの連絡調整を実施していることが数値の傾向からみてとれる内訳となっている。

また、昨年度に引き続き、人権擁護（虐待など）に関する件数も少なくない件数となっている。

相談内容（延件数）

単位：件

項目	件数								
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
在宅サービス	205	42	509	301	49	0	0	21	1,127
施設入所	47	5	56	33	17	0	0	2	160
日中活動	75	19	410	258	84	0	6	22	874
就労	411	0	1,210	840	41	0	1	207	2,710
医療	122	8	231	392	35	0	1	27	816
不安の解消	60	0	502	357	26	0	1	37	983
保育・教育	3	1	79	2	2	0	0	0	87
年金・保険	73	13	184	119	40	0	2	12	443

人権擁護	9	1	67	29	1	0	0	2	109
財産	8	0	219	160	0	0	0	9	396
社参・余暇	24	6	81	38	20	0	0	5	174
介護・住宅	35	13	30	23	0	0	0	0	101
諸制度	140	4	173	144	19	0	4	15	499
家族・人間関係	29	0	168	116	17	0	0	25	355
連絡調整	451	59	1,248	1,061	148	0	6	116	3,089
個別支援会議	16	1	77	96	11	0	1	4	206
生活保護	11	0	3	32	0	0	0	9	55
手話・要約	17	0	0	0	0	0	0	0	7
その他	79	9	149	181	12	0	0	25	455
計画相談	130	37	273	284	48	0	0	24	796
合計	1,935	218	5,669	4,466	570	0	22	562	13,442

### 3 地域ネットワーク及び啓発事業について

#### (1) 地域ネットワーク構築

##### ① 北播磨地域自立支援協議会

実施年月日	検討内容
H27. 7. 2	【運営会議】 事業報告等 全体会について
H27. 10. 30	【運営会議】 各部会から今年度の中間事業報告 後期研修会についての協議
H28. 2. 12	【運営会議】 各部会から今年度の事業報告 全体会及び後期研修会についての協議
H28. 8. 6	【全体会】 講演『障害者差別解消法とこれから取り組む課題～地域自立支援協議会が果たす役割～』 社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 障害者総合相談支援センターにしのみやセンター長 玉木幸則氏
H28. 3. 5	【全体会】 パネルディスカッション『高齢障害者のケアマネジメントについて』 パネリスト：斎藤信広氏、谷口泰司氏、森一人氏、濱垣隆之氏 コーディネーター：中川和也氏

##### ② 相談支援部会

実施年月日	検討内容
H27. 4. 28	・平成27年度相談支援部会事業計画（案）の検討 ・情報交換、近況報告 各市町の自立支援協議会立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について

H27. 6. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議 全体会（前期）について 研修会の内容など</li> <li>・情報交換、近況報告</li> <li>・他圏域からの『きたはりマップ』提供依頼について</li> </ul>
H27. 9. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会（前期）反省点等について</li> <li>・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について</li> <li>・全体会（後期研修）について</li> </ul>
H27. 10. 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議での中間報告内容について</li> <li>・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について</li> </ul>
H27. 12. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『きたはりマップ』の公開拡大版データの完成</li> <li>・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について</li> <li>・後期研修会の内容について</li> </ul>
H28. 2. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会（後期）研修内容について</li> <li>・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について</li> <li>・平成 27 年度の相談支援部会開催内容について</li> </ul>

### ③ 就労支援部会

実施年月日	検討内容
H27. 6. 30	<b>【全体会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働行政の状況・支援機関の情報交換・制度の情報提供</li> </ul>
H28. 1. 26	<b>【全体会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働行政の状況・支援機関の情報交換・制度の情報提供</li> </ul>
H27. 7. 28	<b>【職場適応援助者連絡会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任職場定着支援担当者の業務について ・ジョブコーチ支援経過のまとめ</li> <li>・圏域内就労支援のあり方について</li> </ul>
H27. 8. 25	<b>【分科会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労系障害福祉サービス利用に係るアセスメントの検証</li> <li>・就労継続支援A型事業所の利用にあたり、福祉と雇用の連携について考える</li> </ul>
H27. 10. 27	<b>【分科会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労系障害福祉サービス利用に係るアセスメントの検証</li> <li>・就労継続支援A型事業所の利用にあたり、福祉と雇用の連携について考える</li> </ul>

### ④ 生活支援部会

実施年月日	検討内容
H28. 2. 22	講義「障害者虐待防止について」 講師：益田毅氏

### ⑤ 発達支援部会

実施年月日	検討内容
H27. 7. 9	実践発表①「中学校での支援の現状と中高連携について」

	<p>三木市立緑ヶ丘中学校 特別支援教育コーディネーター 佐藤豊氏 実践発表②「高等学校での支援の現状と中高連携について」</p> <p>西脇北高等学校 特別支援教育コーディネーター 和田敏幸氏 実践発表③「中高連携についてセンター校の取り組みから」</p> <p>北はりま特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 市位葉子氏</p>
H28. 2. 8	<p>実践発表① 「丹波地域での中高連携シートの現状と課題」 氷上西高等学校 養護教諭 中村加奈氏</p> <p>実践発表② 「中高連携のための福祉と学校、教育委員会のネットワーク構築について」 加西市教育委員会学校教育課 小坂卓司氏 加西市地域福祉課 青木咲樹氏 加西市相談支援センター 濱垣隆之氏</p> <p>実践発表③ 「中高連携において東播磨の取り組み」 播磨東教育事務所 特別支援教育推進員 村上球男氏</p>

#### ⑥ 加西市就業・生活支援ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
H27. 9. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例報告 加西特別支援学校</li> <li>・グループディスカッション</li> <li>・グループ発表、意見交換</li> </ul>

#### ⑦加西市精神関係機関連絡会議

実施年月日	検討内容
H28. 1. 27	事例検討（各機関で対応が難しいケースについて）・情報共有したい事例について・情報交換

#### ⑧加西市精神ケースカンファレンス

実施年月日	検討内容
H27. 12. 17	事例検討（各機関で対応が難しいケースについて）・情報共有したい事例について・情報交換

#### ⑨北播磨圏域歯科保健対策検討会議

実施年月日	検討内容
H28. 3. 3	<p>情報提供 （１）北播磨圏域「特に配慮を要する方への歯科保健の取り組み」について</p> <p>協議 （１）「北播磨圏域歯科診療施設における施設・診療情報」の活用について （２）通所障害者（児）施設での歯科検診等実施体制整備事業について</p> <p>その他（歯周病検診の取り組み、ふるさとづくり事業について）</p>

#### ⑩北播磨圏域精神科・心療内科医連絡会

実施年月日	内容
H27. 7. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域における相談支援事業について 講師：益田毅氏</li> <li>②障害者相談支援センターの紹介</li> </ul> </li> <li>・ 兵庫県における自殺対策の総合的な推進</li> <li>・ 北播磨の自殺の現状</li> <li>・ 処遇困難事例への対応について</li> <li>・ 意見交換</li> </ul>

#### ⑪北播磨精神障害者地域移行・地域定着推進連絡会議

実施年月日	内容
H27. 10. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 27 年度兵庫県版精神障害者地域移行・地域定着支援体制スキームについて</li> <li>②精神障害者ピアサポーター活動について</li> <li>③地域移行支援の実際</li> <li>④各市町における地域移行支援の状況について</li> <li>⑤意見交換</li> </ul>

#### ⑫就 B の会

実施年月日	内容
H27. 5. 28	こはる日和の見学及び交流会 就労系アセスメントについて、福祉バザーについて、「芸術文化を通じた障がい者の社会参加促進事業」実施団体募集について、きたはりマップについて、勉強会・研修会の開催について、情報交換
H27. 9. 7	みんなの福祉フェスタ2016障がい者芸術まつりについて、若年性認知症勉強会について、
H27. 11. 4	地域活動支援センターと就労継続支援B型の併用について、意見交換
H27. 11. 17	みんなの福祉フェスタ2016障がい者芸術まつりについて
H27. 12. 7	兵庫ネクストファームより共同受注作業スタート

※市内就労継続支援 B 型事業所（エル・ファーロ、こはる日和、善防園、ワークらんど加西・スリーブ）と相談支援センターやすらぎで構成。

#### ⑬相談支援の会

実施年月日	内容
H27. 4. 30	サービス更新月リスト確認。計画作成やモニタリングの実施について意見交換。防災研修。
H27. 5. 29	サービス更新月リスト確認。計画作成やモニタリングの実施について意見交換。防災研修。
H27. 6. 26	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H27. 7. 30	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H27. 8. 26	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H27. 9. 30	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。防災研修。
H27. 10. 2	みんなの福祉フェスタでの防災ブースについて。
H27. 10. 28	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。
H27. 11. 25	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H27. 12. 22	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H28. 1. 25	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。

H28. 2. 29	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。
H28. 3. 30	サービス更新月リスト確認。計画作成等に関する意見交換。加西市障がい者福祉のしおり。防災研修。

※ラヴィかさい相談支援事業所、ナーシングピア加西相談支援事業所、医療福祉センターきずな相談支援事業所  
ワークらんど加西相談支援事業所、地域生活支援事業所はんど、地域福祉課で構成。

### ⑬発達障がい児支援連絡会

実施年月日	内容
H27. 7. 9	発達障がい児の教育と福祉の連携について
H27. 8. 12	趣旨説明、現状確認

※関係高等学校、加西特別支援学校、市内中学校、ひょうご発達障害者支援センタークローバー、教育委員会、  
地域福祉課、相談支援センターやすらぎで構成。

### ⑭ひきこもり支援連絡会

実施年月日	内容
H27. 7. 16	加西市における若者支援の連絡体制構築に向けて 姫路若者サポートステーション有元氏、西脇ハローワーク藤田氏、地域福祉課三船課長、千種氏、四 方氏、霜門氏、家庭児童支援係野上氏、産業振興課高見氏、村岡氏、やすらぎ濱垣氏、大城戸氏
H27. 9. 3	情報交換会議 ・相談支援、活動状況の報告 ・ケース報告と共有 ・自立相談支援事業について
H28. 1. 13	ひきこもり支援連絡会 ・ケース検討 ・意見交換
H28. 2. 8	ひきこもり支援連絡会 ・ケース検討 ・意見交換
H28. 3. 18	ひきこもり支援連絡会 ・ケース検討 ・意見交換

※地域福祉課、家庭児童支援係、産業振興課、相談支援センターやすらぎで構成。

### ⑮高齢・障がい者支援連絡会

実施年月日	内容
H27. 6. 23	たんぼぼの視察
H27. 7. 8	たんぼぼ視察報告、今後に関する会議
H27. 7. 27	楽笑介の視察
H27. 8. 3	ほっこりカフェの視察
H27. 8. 17	情報交換、意見交換、今後について
H27. 9. 15	就労継続支援B型事業所との研修会について、西播磨認知症カフェ立ち上げ研修会について

H27. 10. 15	就労継続支援B型事業所との研修会について、意見交換
H27. 11. 5	第1回若年性認知症にかかる研修会について、意見交換
H27. 11. 9	第1回若年性認知症にかかる研修会 「若年性認知症の理解とその支援について」 講師：ひょうご若年性認知症生活支援相談センター清水美代子氏
H27. 12. 7	第1回若年性認知症にかかる研修会の振り返り、意見交換
H28. 1. 13	第2回若年性認知症にかかる研修会について、意見交換
H28. 1. 28	第2回若年性認知症にかかる研修会について、意見交換
H28. 2. 24	第2回若年性認知症にかかる研修会について、意見交換
H28. 3. 4	第2回若年性認知症にかかる研修会 「若年性認知症の方への支援」～出会い・新たな活動へ～ 講師：J Aみのり加東ケアセンター 平尾智洋氏 ひょうご若年性認知症生活支援相談センター清水美代子氏
H28. 3. 24	第2回若年性認知症にかかる研修会の振り返り、意見交換

※地域福祉課、長寿介護課、相談支援センターやすらぎで構成。

#### ⑩みんなの福祉フェスタ実行委員会

実施年月日	内容
H27. 4. 21	前回フェスタの振り返り
H27. 7. 23	福祉課とやすらぎで今年度のイベントについて話し合う。
H27. 10. 6	イベント内容の検討
H27. 12. 1	イベント内容の確認、調整
H28. 2. 15	内容確認、役割分担
H28. 3. 12	前日準備
H28. 3. 13	イベント当日

※市内福祉サービス提供事業所（医療福祉センターきずな、希望の郷、さくらの家、善防園、ナーシングピア加西、ワークらんど加西・こはる日和）、障害福祉に関心のある団体（すみれの会、ふきのとう）と特別支援学校、市役所地域福祉課、相談支援センターやすらぎで構成。

## （2）啓発事業

### ① 社会参加支援事業の実施

実施年月日	テーマ	内容	開催場所	参加者
H27.5.24	余暇活動	外出（ボウリング）	ニッケパークボウル	7人
H27.9.6	余暇活動	映画鑑賞	テラッソ姫路、シネマ	5人
H27.12.20	余暇活動	日帰り旅行（みとろ温泉）	みとろ温泉	5人
H28.2.21	余暇活動	外出（カラオケ）	3びきのこぶた	7人
H27.6.5	一日デイケア	買い物、調理（アイスクリームパフェ）	市民会館	6人
H27.12.4	一日デイケア	調理（和風もちピザ作り）	市民会館	6人

### ② 講演会等



実施年月日	テーマ	内容	対 象	参加者
H27.4.17	障害福祉サービスについて	就労系アセスメントについて	支援学校保護者	15 人
H27.4.17	相談支援事業について	相談支援事業について	善防園職員 及び保護者	100 人
H27.6.24	加西市の相談状況について	相談支援の状況、教育と福祉の連携	加西特別支援学校 教員	70 人
H27.10.20	高齢障害者ケアマネジメント研修	高齢障害者への支援について	相談支援員、ケア マネージャー	200 人
H27.11.9	第 1 回 若年性認知症にかか る研修会	若年性認知症の理解とその支援について	高齢者支援施設 及び障がい者支援 施設職員	71 人
H27.11.17	障害福祉制度につい て	障害福祉制度全般について	加西市内小中学校 教頭	20 人
H28.3.4	第 2 回 若年性認知症にかか る研修会	若年性認知症の方への支援	高齢者支援施設 及び障がい者支援 施設職員	44 人
H28.3.13	みんなの福祉フェス タ 2016	みんなのメッセージ制作・ファッションショー 等	地域交流センター	380 人

## 平成 27 年度 事業報告書 (就労継続支援 B 型事業 THREE-P)

<p>① 事業の状況</p> <p>○ 運営面</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成 27 年 4 月より利用者数 9 名 (希望の郷 4 名・なごみ 3 名・加西市 1 名・加古川市 1 名) で始まる。平成 27 年 11 月に 1 名・同 12 月に 1 名利用終了、平成 28 年 2 月に 1 名利用開始となり、年度終了段階で利用者数 8 名 (希望の郷 3 名・なごみ 3 名・加西市 1 名・加古川市 1 名) となる。開所して半年経過しただけということもあり、設備面 (作業用の棚やパーティション、感染予防の加湿器、旧式エアコンの取り換え等) の整備を行う必要があり、経費が掛かることとなった。</li> <li>2) 平成 27 年 10 月に県の指導監査があった。同年 12 月に改善報告書を提出する。</li> </ol> <p>○ 事業面</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) THREE-P で行う作業について、数社の見学や作業内容の問い合わせを行い、その中から 2 社作業を受け入れることとなった。平成 28 年 3 月現在で、3 社から 4 種類の作業を委託している。作業内容については、納期などある程度自由のきくものから、数をこなさなければならない物など多岐にわたり、その都度優先順が異なる状況で利用者に対し、目標値等をわかる形で伝えながら製造を行っている。</li> <li>2) 施設外就労 (サンアンドホープ委託) について、企業側の受けている注文数が増えていたこともあり、作業延長や増援を依頼受けたが、その都度調整し可能な範囲で請け負ってきた。利用者の顔ぶれがあまり変わらないため、その中で新たな工程への挑戦や行っている作業方法の見直し等を行い、製造効率等の向上につとめた。</li> <li>3) 本人の意向や年齢等に合わせ、利用者の所属作業班を見直し、利用者 1 名を施設外就労から事業所内作業へ移行した。</li> <li>4) 人材の育成という面で、年間 9 件の研修に参加した。また参加するだけでなく、研修に参加したスタッフにより、事業所内で研修報告を行い、全体にフィードバックを行った。</li> </ol> <p>○ 新事業面</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成 27 年 12 月に全国専攻科研修大会に参加した。</li> <li>2) 新事業の概要や今後の流れについて検討の上、管理者会議にて報告を行った。</li> </ol>	<p>② 事業の評価</p> <p>○ 運営面</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 年間の稼働率としては 77% であり、一部長期的に休む利用者もいたが、概ね安定して稼働させることができた。利用者の利用終了が重なった時期は収益としてマイナスに転じた時期もあったが、年間を通してみると黒字で終えることができた。</li> <li>2) 収支の概算として、本体収支・委託収支・作業収支とをきちんと仕分けして見られていなかった為、トータルで見ると黒字ではあるが、作業収支としては赤字となった。</li> <li>3) 監査での指摘内容は 6 箇所あった。内容については悪質と判断されるようなものではなく、書類上の不備や不足箇所の追記、また一部加算報酬の返還などであった。</li> </ol> <p>○ 事業面</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作業導入当初は利用者だけでは追いつかず、スタッフで担う部分が半分以上という状態であったが、現在では一部を除き利用者のみで行い、製造効率も上がり納期等に合わせて従事できている。受注作業の収益を見ても、昨年の実績に比べ約 18 万上げることができた。 (平成 26 年度 (半年) 33,427 円、平成 27 年度 251,142 円)</li> <li>2) 新たな工程や製造効率の向上を図る中で、今まで行っていなかった工程に従事することにより社員の方からの称賛の声や、やりがいや自信をもてたという発言など、利用者にとって給料以外面でもやりがいなど大きく感じているようであった。収益としても昨年度の実績に比べ約 13 万上げることができた。 (平成 26 年度 (半年) 422,869 円、平成 27 年度 979,453 円)</li> <li>3) 作業場の移行に伴い、大きな減収にならないように作業内容や方法を検討する。結果、施設</li> </ol>
---	---

外就労時の給料と同水準もしくは多い金額の支給を受けることができた。また受注状況にもある程度左右されるものの、全体で年平均 10,600 円の給料支給ができており、昨年度に比べて平均 800 円上げることができた。

(平成 26 年度(半年) 平均 9,872 円、平成 27 年度 平均 10,605 円)

- 4) 平成 27 年度は新任職員研修や障害者差別解消に関する研修に主に参加し、現状のスタッフに及び今後の事業所にとって必要となる研修に参加することができた。来年度においてはサービス管理責任者研修や就労分野に関わる研修会への参加を積極的に行っていき、就労面の知識やスキルの向上を図っていく必要がある。

○ 新事業面

- 1) 研修大会では、実際行われているカリキュラムや、専攻科の意義等について話を伺い、その事業の必要性を強く感じることができた。まだまだ事業の内容等理解の及んでいない部分が多くある為、より多くの情報を得るとともに、開設に向けて動いていく必要がある。
- 2) 2～3 階部分の活用の方向性として、自立訓練(生活訓練)事業による福祉型専攻科を提案。内容や必要性、今後の流れについて管理者会議の場で提示。この方向性で進め、平成 30 年度開設に向けて動き出すこととなった。

③ 次年度へ向けて

○ 運営面

- ・ 全体の収支を適切に見ていくため、本体収支・委託収支・作業収支を整理しながら、工賃支払規定等と合わせて見直し・調整を行う必要がある。
- ・ 建物購入費用・改築費用・及び公用車納入費用などの原価償却を考えるうえで、さらなる収益向上が求められる。収益向上に向け、利用者の確保や各種加算の検討及びその為の事業の安定・向上を目指していく必要がある。
- ・ 指摘としては軽微ではあったものの、指摘を受けた事実を重く受け止める必要があり、適切な事業運営を図る為、今後に生かす必要がある。

○ 事業面

- ・ より多くの給料を支払うことができるよう、既存の作業にとらわれず作業内容を検討していく必要がある。
- ・ 一部利用者により年齢等現状の作業継続が難しくなる可能性も高いため、事業所内において作業班の移行など検討していく必要がある。合わせて、新規利用者の獲得に向けて支援学校などに関わりを持っていく必要がある。

○ 新事業面

- ・ サービスの内容等を検討するために必要な研修や見学に行くことや合わせて建物改修についてなどソフト面・ハード面双方について検討を進めていく中で、福祉だけでなく協力機関及び協力者を模索する必要がある。

# 平成 27 年度 児童発達支援事業所なゆた 事業報告書

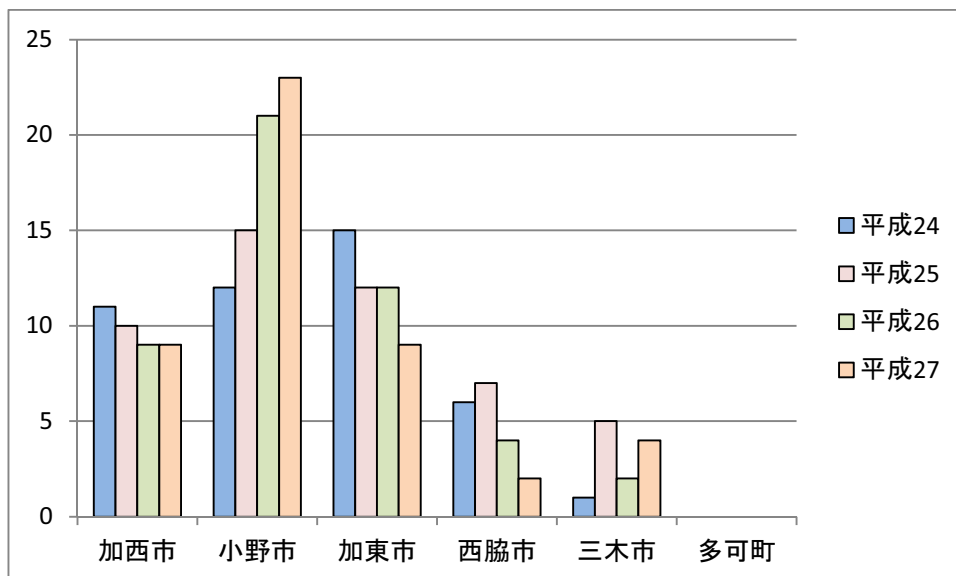
## 1. 事業概要

平成 24 年 3 月 15 日に児童発達支援事業所なゆたが開所され、平成 28 年 3 月で開所から 4 年が経過した。本事業所では、北播磨圏域(加西市、小野市、加東市、三木市、西脇市、多可町)を利用圏域として設定し、利用希望者には通所受給者証を取得してもらった上で契約をおこない、児童福祉法で定められた個別支援計画を作成してその計画を基に支援をおこなっている。利用者は主に自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、知的発達症の児童となっており、利用経路としては保育園、幼稚園、各市の福祉課、保健センター、クローバー加西ランチ、医師、相談支援事業所の相談支援専門員からの紹介が主となっている。利用できる対象として就学までとしている。

前年度からの変更点として、開所時間減算回避のために午後の療育時間を 2 時間から 4 時間に延ばしたことがあげられる。結果給付費カットの割合を 30%から 15%に抑える事ができた。しかし療育の臨床的意義を考慮すると、療育時間が長い事による児童の疲労や療育の準備時間の削減という問題が大きく感じられた。開所時間減算の捉え方として『1 日の合計サービス提供時間が 4 時間以上』で減算を 15%に抑えられる事になったため、平成 28 年度からは午後の療育は 3 時間に設定する事とした。

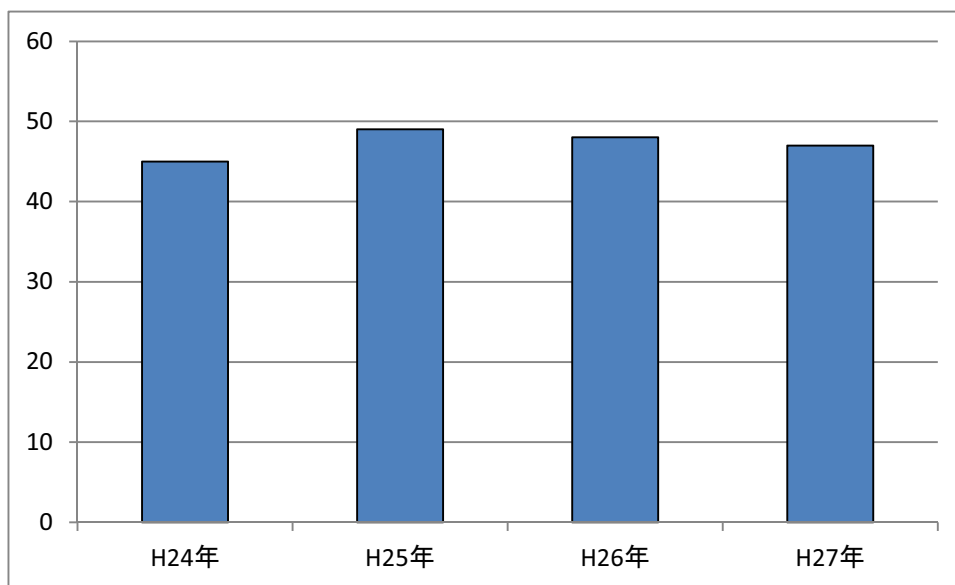
## 2. 地域別契約数推移

下図が地域別の契約数推移となる。加西市に関しては、平成 26 年度と比較して 1 名が終了して 1 名が新規契約となったため数値は変化していないが、新規契約の 1 名は加東市から引っ越してくるタイミングで加東市からの紹介によって契約に至った児童であり、厳密に言うとなると加西市と繋がって契約した児童は 0 である。小野市は、26 年度末に 6 名修了、27 年度新規契約 8 名なので実質 2 名増である。前年度同様保健センターが積極的に当事業所のアナウンスをしてくださっており、契約に至っている。加東市は、26 年度末に 4 名修了、27 年度新規契約 2 名なので実質 2 名減である。加東市の保健師の話によると、当事業所が定員一杯で受け入れができない状態であるという噂が流れており、一旦アナウンスを止めていた、とのことであった。西脇市は、26 年度末に 2 名修了、新規契約無しのため 2 名減である。三木市は、26 年度末の修了無し、27 年度新規契約 2 名なので実質 2 名増である。しかし、保護者の就労による契約終了とこども発達支援センターにじいろ利用開始に伴う契約終了により年度途中で 2 名減している。



### 3. 総契約数推移

契約総数は初年度から45名～50名の間を維持している。各市の利用数のばらつきが激しくなっている事、新しく他の事業所(三木市 - にじいろ、加東市 - コスモス園等)が作られてきている事を踏まえると、延べ利用人数確保のために積極的な対処(1人の児童の利用回数の変更等)が必要となる。



### 4. 個別支援計画の作成

契約数＝個別支援計画作成数の対応は初年度から継続している。平成27年度は午後の療育時間を4時間で実施してきたこともあり、前年度よりもさらに職員の準備や話し合いの時間が限られた。このような状況の中で、各利用者のファイルの一番上に個別支援計画を綴じ、療育開始前にそれぞれの職員が確認する事を決めた。このことによって療育中の注目点に具体性を持たすことができた。

支援計画書の作成においては、職員がそれぞれ担当を持ち、最終的に児童発達支援管理責任者が加筆修正をおこなう形で実施してきた。この形に関しては今後も継続していく。

### 5. 支援内容

支援形態としては、集団場面でのコミュニケーション訓練、個別の認知課題、微細運動訓練(製作活動)、音楽療法の形をベースとし、その中で認知・コミュニケーション・情動調整の領域別に評価をおこなった。

保護者からの相談に関しては、基本的に連絡帳の記入欄に記入してもらって返答する形をとったが、保護者から要望があった際には相談の時間を確保し、直接相談を受けた。

利用児童の通う保育園、幼稚園から要望があった際には訪問支援も実施した。

#### コミュニケーション訓練

- 基本的な社会的ルール理解を促すために、状況理解課題、ロールプレイ課題、ルール理解を必要とするゲーム等を実施した。具体的なロールプレイによるコミュニケーション訓練もおこないながら、遊びの時間や散歩の時間に見られた児童同士のコミュニケーション不全に対し、1つ1つ場を止めてより適切な対応方法を指導してきた。

### 個別の認知課題

- ・発達段階毎に設定した認知的机上学習課題を実施。実施に際しては言語性課題と動作性課題を交互に実施することにより児童のモチベーション維持ができるように配慮した。
- ・児童の発達段階によっては言語理解、目と手の協応スキル、ひらがな理解、数概念の理解等の他に、短い言葉のやりとりを通じた会話の練習をおこなった。

### 音楽療法

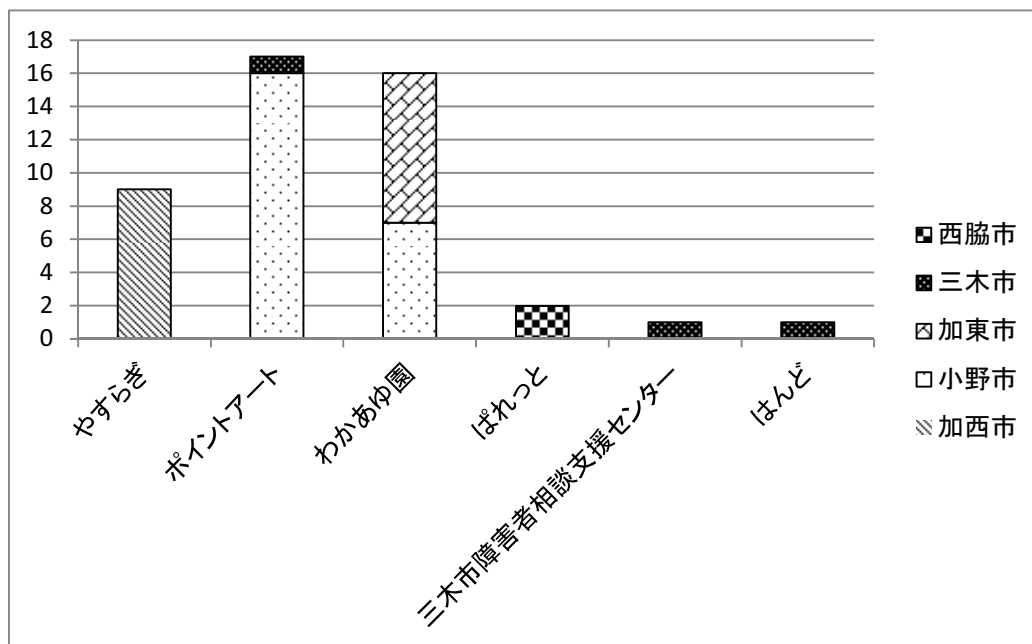
- ・個別音楽療法と集団音楽療法を実施。個別では、職員を意識して一緒に活動することや楽器を通してやりとりができるように支援をおこなった。
- ・集団では、他の児童の事を意識できるように配慮し、1つの楽器を多人数で使うことや交替で楽器活動に取り組むことを実施した。

### 微細運動訓練

- ・制作活動を通じた微細運動訓練を実施。ハサミ、のりといった文房具の扱い方を指導し、五指を機能的に使えるようになるための支援をおこなった。

## 6. 担当者支援会議

支援利用計画作成にあたって担当相談支援専門員との支援会議に参加してきた。平成27年度は主に6か所の相談支援事業所と支援利用計画について会議をおこなってきた。会議の形態としては、相談支援専門員の方に直接当事業所に来所していただきおこなうケース、電話連絡によるケース、当事業所の職員が相談支援事業所に行っておこなうケースがあった。



## 7. 対外的な連携・支援

当事業所を周知してもらう目的も含め、他機関からの情報提供や支援の要請があった際には職員を派遣して連携してきた。

日時	要請内容	対象
平成 27 年 4 月 15 日 平成 27 年 5 月 28 日	在籍する ASD 児の対応について	比延小学校教諭
平成 27 年 4 月 22 日 平成 27 年 8 月 7 日	保育所に在籍 3 名の ASD 児の対応について	小野中央保育所保育士
平成 27 年 5 月 12 日	学校に在籍する ASD 児の対応について	加西特別支援学校教諭
平成 27 年 5 月 15 日	相談支援事業所ポイントアート主催講演会・講師派遣	神経発達症児の保護者
平成 27 年 5 月 29 日 平成 27 年 8 月 28 日	保育所に在籍する ASD 児の対応について	加茂保育所
平成 27 年 6 月 12 日	幼稚園に在籍する ASD 児の対応について	北条幼稚園
平成 27 年 7 月 24 日	幼稚園に在籍する ASD 児の対応について	若松幼稚園
平成 27 年 9 月 25 日	加東市子ども発達支援連絡会 代表者会議・講師派遣	加東市
平成 27 年 12 月 11 日	在籍する ASD 児について	亀鶴保育所

## 8. 修了する児童への対応

本事業所では利用対象が就学までとなっているため小学校・特別支援学校にあがる児童に対しての直接療育は実施していないが、保護者及び学校から要望があった際の情報提供、間接的な支援に関しては可能な範囲でおこなった。

日時	内容	情報提供・派遣先
平成 27 年 11 月 27 日 平成 28 年 2 月 10 日	入学予定児童の情動調整に関連する校内研修	東条西小学校

# 事業報告書

作成者 小椋 智子

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで  
事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所どっこいしょ

## 1 事業実績

### (1) 利用実績

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1 (人)	3	3	2	3	2	2	1	1			1	1
要支援2 (人)	7	7	7	7	6	6	6	6	6	7	6	6
要介護1 (人)	7	7	7	8	9	8	8	8	7	7	7	6
要介護2 (人)	1	1	1	3	4	4	5	5	6	6	7	7
要介護3 (人)	3	3	4	4	5	5	5	4	4	4	4	4
要介護4 (人)	3	4	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1
要介護5 (人)			1	1	1	2	2	2	2	1	1	1
総合計(人)	24	25	25	29	29	28	28	27	26	26	27	26
利用率	82.8%	86.2%	86.2%	100.0%	100.0%	96.6%	96.6%	93.1%	89.7%	89.7%	93.1%	89.7%
平均介護度	1.8	1.9	2.2	2	2	1.9	2.1	2.1	2.2	1.9	1.9	1.9
認知症生活自立度2b以上(人)	13	13	13	13	15	15	15	14	13	13	13	13
独居の後期高齢数(人)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
通い利用者数(延べ人数)	265	263	333	406	403	376	381	355	343	319	322	345
稼働率	49.1%	47.1%	61.7%	72.8%	72.2%	69.6%	68.3%	65.7%	61.5%	57.2%	61.7%	61.8%
訪問数(延べ回数)	126	129	128	165	178	169	201	205	185	166	179	219
加算算定を基準においた稼働率 (1日20件)	63.0%	64.5%	64.0%	82.5%	89.0%	84.5%	100.5%	102.5%	92.5%	83.0%	89.5%	109.5%
泊り利用者数(延べ人数)	67	76	91	101	109	51	53	43	63	71	80	89
稼働率	37.2%	40.9%	50.6%	54.3%	58.6%	28.3%	28.5%	23.1%	33.9%	38.2%	46.0%	47.8%

※通いの定員(18名)に対し稼働率が低い。登録利用者に対し必要なサービスが十分に届いているか検討する必要がある

※宿泊定員6名に対し、1～2名宿泊の日が多い。宿泊者が1～2名に対し1名の夜勤者で対応している。宿泊の受け入れについて検討し、業務の適正化・効率化を図る必要がある

※現状の通いの稼働率ならば、訪問の稼働率を上げていく必要がある

※加西市の他の小規模多機能型居宅介護と比較すると、認知症者の数は他と大差はないが、独居の後期高齢者は多い傾向にある。中には、認知症で独居の後期高齢者も1名利用している。

### (2) 事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保険分請求額	3,144,582	3,229,938	3,457,539	4,189,518	3,791,817	4,208,031	4,368,051	4,113,558	3,693,132	4,083,768	3,546,468	4,232,844
利用者負担額	272,059	268,051	314,226	359,021	398,088	395,307	408,467	386,279	389,671	356,936	354,534	367,330
自費請求額					2,790							3,560
朝食代	15,390	16,200	22,140	27,270	28,620	13,500	13,500	11,880	15,390	18,360	19,170	23,760
昼食代	139,200	117,000	166,200	190,200	209,400	191,400	199,800	179,400	174,000	160,200	162,600	179,400
おやつ代	21,400	19,900	27,700	31,600	35,400	33,200	32,900	30,600	29,100	26,700	26,800	27,400
夕食代	65,450	62,150	84,700	94,600	92,950	74,250	47,300	39,050	48,950	50,600	44,000	50,600
配食代(昼食)		19,800	9,600	10,800	9,600	11,400	31,800	31,200	35,400	33,600	40,800	42,000
配食代(夕食)		5,500	550	2,200		550	31,900	33,000	35,200	31,900	43,450	44,550
宿泊費(15日以下)	45,000	87,000	100,500	112,500	82,500	78,000	78,000	66,000	58,500	61,500	75,000	66,000
宿泊費(16日以上)	92,500	45,000	62,500	62,500	135,000				57,500	77,500	72,500	112,500
洗濯代	12,300	10,200	9,900	8,400	7,200	4,800	1,800	2,100	3,900	5,700	6,600	7,200
その他	2,702	4,276	200	200	2,036	27,939	2,313	6,560	5,646	1,900	4,684	500
パット・紙パンツ				200								
事業収入合計	3,810,583	3,885,015	4,255,755	5,089,009	4,795,401	5,038,377	5,215,831	4,899,627	4,546,389	4,908,664	4,396,606	5,157,644



## 2 事業評価

### (1) 介護保険改定に伴う、登録利用者数の変更について

27年度、介護報酬改定に伴い基本報酬の減収があった。対応として、平成27年4月1日より、登録定員を24名から29名・通いの定員を15名から18名に増やした。また、認知症加算・総合マネジメント加算・サービス提供体制強化加算を新たに算定した。4月より、利用率100%を目指して利用者の充足をし、7月には利用率100%になったが職員体制に課題があり、事業所として利用者に適切なサービス提供が行えなかった。

### (2) 事業方針について

- ▶事業方針に基づき、後期高齢者が在宅での生活を継続していけるよう、地域での体制づくりや、個別の課題に対応していけるようなサービス提供を心がけている。
- ▶平均介護度は低くなっているが、他の加西市内の小規模多機能型居宅介護に比べて高くなっている。認知症が重度になり、介護度が上がれば家族介護に限界をきたし、特別養護老人ホームへの入所が進むのが現状であるが、どっこいしょの利用者は、どっこいしょを利用することで元気になり、在宅生活の継続が他の事業所よりも長くできている。小規模多機能型居宅介護を入所施設の通過地点とせず、終末期まで支えることができる事業所として事業運営をしていく。(終末期には介護度が上がるので、事業収入も増える)
- ▶終末期までに、認知症の進行等で行動心理症状が悪化し家庭介護が困難になる時期がある方が多い。困難な時期では、事業所においても離設等があり、特に夜間は対応困難になることがある。職員が認知症の理解と対応力を向上することで困難な状態に対応でき、家族と共に終末期まで在宅生活を支えることができるということを理解し、職員全体の意識の向上と専門性の向上を目指している。
- ▶認知症の進行に伴い、在宅生活が困難になるケースが多い。虐待の被害にあうケースがある。生活困難の原因が認知症のみの方は、介護認定で介護度が低い場合が多く、利用できるサービスがない。このような地域での困難ケースを受け入れることで、社会福祉法人が経営する事業所の社会的な使命を果たしている。

### (3) サービス提供について

- ▶利用者一人一人に介護サービス計画を作成し、個別支援を行っている。
- ▶訪問機能の強化を心がけ、在宅での生活の継続を支援している。
- ▶通い・訪問機能を活用し、外出支援を積極的に行った。生きる意欲が低下し、引きこもりがちな後期高齢者に対し、個別・集団での外出を実行している。
- ▶認知症の行動心理症状の出現を抑えている。行動心理症状で家族が対応困難な時は通い・泊りを活用し一時的に長期間、どっこいしょに連続で滞在してもらっている。
- ▶年間行事を企画し、QOLの向上に努めている。

### (4) 地域活動について

後期高齢者・認知症状態の高齢者が在宅で生活していくための仕組みづくりを目指している。そのためには、地域住民の参加と行動が不可欠であり地域住民との関係づくりや協力体制

の構築を目的に実践している。

#### 【活動内容】

- ▶運営推進会議で地域の課題を話し合い、地域住民と協働して取り組めることに取り組んでいる。  
(利用外の独居高齢者の見守り・畑の手伝い等)
- ▶幼稚園交流を企画し、定期的に交流できる機会をもっている。
- ▶小学校の福祉教育で認知症講座を開催（2回）。
- ▶認知症啓発を市内介護保険事業所・市長寿介護課と協働で実施。
- ▶下若井町サロンの企画・運営協力。
- ▶絆カフェの立ち上げ、開催。
- ▶いきいきサロンでの介護予防教室・敬老会での落語会開催等社協事業への協力。
- ▶認知症徘徊模擬訓練参加。
- ▶加西市小規模多機能型居宅介護連絡会開催・運営。

#### （５）職員教育

##### 【目的】

- ① 組織の一員として自覚を持ち、使命・目標達成に向けて主体的に取り組むことができる職員を育成する。
- ② 専門職としての知識・技術・社会性を備え、利用者本位のサービス提供ができる職員を育成する。
- ③ 理念の共有し、倫理を持ち業務にあたるよう自己研鑽の機会とする。
  - ▶平成27年度は、OJT・OFFJTに参加し、知識・技術の向上することで、職員一人一人が問題意識を持って業務を遂行できるようになることを目標にして教育に取り組んだ。

##### 【研修会等参加実績】

- ▶事業所内研修
  - ・法人理念・事業所理念について
  - ・介護保険制度について
  - ・権利擁護・高齢者虐待防止について
  - ・介護保険事業所における接遇マナーについて
  - ・小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメントについて
  - ・介護技術について
- ▶外部研修等
  - ・認知症介護実践研修（実践者研修）
  - ・認知症介護実践研修（実践リーダー研修）
  - ・認知症フォーラム「誰もが暮らしやすい町づくり」
  - ・高齢障害者ケアマネジメント研修
  - ・高齢者虐待対応力向上研修
  - ・全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会研修会（事例発表2題）
  - ・認知症対応力向上研修（西脇市）

- ・東・北播磨認知症セミナー
- ・キャラバンメイト養成研修
- ・加西市地域包括支援センターの役割

▶その他

- ・認知症介護実践研修実習生受入れ
- ・鹿児の郷実習生受入れ
- ・さわらびの里見学者受入れ（職員全員）
- ・加西市内小規模多機能型居宅介護事業所間インターシップ
- ・加西市小規模多機能型居宅介護連絡会実践発表会

▶事業所内外で研修会等に参加すること、他事業所からの実習や見学者受け入れを実施。

▶職員全員が研修会等に参加できる体制にはなかったが、研修参加後は報告書を作成し職員全体に回覧するなどし研修内容の周知徹底を心がけた。

### 3 次年度（平成 28 年度）に向けて

#### （1）課題

- ①利用率・稼働率が低い
- ② 認知症者・困難ケースへの対応が不十分
- ③ 終末期ケアができる体制作り
- ④ 小規模多機能型居宅介護を拠点とした地域との関わり
- ⑤サービス提供における質の確保と人材育成

#### （2）方向性と展望

##### ① 利用率・稼働率について

小規模多機能型居宅介護の介護保険収入を上げるためには、介護度の高い利用者確保することが欠かせない。また、登録定員割れがないように利用者の確保をすることが必要である。

これまでの傾向では、要支援もしくは介護度の低い状態で、どっこいしょの利用を開始し、加齢に伴い認知症の進行や身体機能の低下で介護度が4～5になると特別養護老人ホームへ入所するという方が多い。その原因は①家族介護の困難 ②医療依存度が高くなっていく ③終末期への家族の不安 ④利用料が高くなる といふことがあげられる。介護度が低いうちから、どっこいしょを利用し十分なサービス提供のもと介護度が高くなっても継続して選ばれる事業所になれるように体制整備をする必要がある。通い・訪問の体制整備を実施し、本人・家族が安心して暮らせるためにサービス提供を実施する必要がある。

平成 28 年度中に、通い・訪問の体制整備を実施すること検討している。見直し内容は①「通いの利用時間」を検討している。現在、多くの利用者が 9：00～16：00 の利用が決められており、「デイサービス」のように利用している。本来の小規模多機能型居宅介護の役割を果たせるように、通いを均一的な時間でサービス提供するのではなく、個人のニーズに合わせてマネジメントを実施していく。

②「訪問体制」の整備を並行して行う。職員1名が1日に8～10件の訪問に出られる体制を検討する。具体的には5月～6月で職員に説明をし、7月～8月で実施体制を整備、9月頃に実施し検証する。(その際、ケアプランの見直しも並行して実施する)

② 認知症者・困難ケースへの対応が不十分

多くの困難ケースは認知症の進行に伴い、見当識障害・記憶障害を中核症状とした行動心理症状の出現に家族が対応できない場合である。また、虐待を受けている(家族・近隣住民)、病識欠如のために介護保険サービスを利用拒否する等がある。このような高齢者に対し、理解を深め、丁寧に対応していかなければ、ならないと考えている。困難ケースへの対応ができなければ、利用率・介護度の確保も難しいということの理解を含め職場全体で共有し、小規模多機能型居宅介護として必要なサービス提供ができるような体制整備が重要である。

管理者・計画作成担当者のマネジメント力の向上を高め、職員全体のスキルアップを図っていく必要がある。

③ 終末期ケアができる体制づくり

小規模多機能型居宅介護から特別養護老人ホームや療養型病床に移るケースの多くは終末期の介護への家族の不安があげられる。どっこいしょでの看取りは、これまでに2名経験している。看取りを実施するためには、職員体制の整備(個人の死生観含む)が不可欠である。看取りに関するマニュアル作成や、在宅医との連携、家族との調整を、本人が意思表示できる段階から実施し、安心してどっこいしょでの看取り介護を利用できるように体制整備を行う。

④ 小規模多機能型居宅介護を拠点とした地域との関わり

認知症を取り巻く地域における問題は、行動心理症状に伴い「外出の際自宅に戻れなくなること」や「ごみ出しができないこと」、病識欠如により「車やバイクに乗り続けること」等多くある。どっこいしょの利用者でも、近隣の方から本人の行動に対し苦情が出ることや、助けを求められることがしばしばある。このようなことは、事業所単体で解決できることではなく、地域住民の理解と協力が不可欠である。認知症の啓発をはじめとする様々な活動の中で、社会福祉を限られた人々に対するサービスとしてではなく、身近な暮らしの場である地域社会での多様な人々の多様な生活課題に目を向け 自発的、積極的に取り組んでいただけるようはたらきかけていくことが必要である。

はたらきかけは、絆カフェやサロン活動等の企画・運営に参画し住民主体の地域づくりを支えていくことを内容とする。また、地域住民との関わりの中で、社会福祉を特定の人に対する公費の投入と考えるのではなく、地域を活性化させるものであることを示していく役割を担いたい。

そして、後期高齢者介護や認知症ケアの取り組みを通し、幼稚園児との交流や小学生への福祉教育に参加し、地域の次世代の互助機能を構築していく役割を果たしていく。

⑤ サービス提供における質の確保と人材育成

小規模多機能型居宅介護のサービスは、通所介護・短期入所・訪問介護とは異なり利

利用者の個別ニーズに合わせて柔軟な対応ができるというメリットがある。このサービスで利用者の安心感・信頼感を得るためには、必要なサービスを必要なだけ届けるためのケアマネジメントが必要である。また、サービス提供がルーチン化された業務ではないので、利用者の日々の状態を把握し、変化に対し臨機応変に対応する能力が職員に求められる。

サービスの質の向上を目的に、職員研修の体制整備をし4月より取り組んでいく。研修等でインプットするだけでなく、業務に活かすことができるよう事業所内研修を、個別支援会議の前に開催し、個別支援に研修内容が反映できるような構造に事業所内研修の日程を組み直した。

事業所において最終的な成果目標である「成果」とは、利用者が最期までどっこいしょを利用することである。そのためのサービス提供における指標を定量的に設定することは難しいため、「構造」や「プロセス」を定め評価していくシステムをH28年度から取り組む。方法は、

- ① 職員全員個別面談を実施し業務に関する目標設定を行う。
- ② 個別に業務のふり返りを実施する。
- ③ 研修等を通して研鑽する機会を均等に提供する
- ④ 1年毎に自己評価を行う。

とし、目標の達成につながる取組を可能な範囲で掘り下げてその改善を後押ししつつ、サービス提供のあり方を歪めることのないように管理をしていく。

以上について、職員全員で共通理解とし実施していくことで、地域の認知症高齢者の生活を支えていく。そして、「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域づくりの中心」を担うことができる事業所として存在し、差別のない地域社会の形成を目的に事業を実施する。

**社会福祉法人ゆたか会**  
**受託事業関係事業報告書**

**障害者等相談支援コーディネーター事業**

- 1 圏域内の市町間及び圏域間の相談支援体制等の連携・調整
  - ・保健・医療・福祉・教育・労働・交通等に関する社会資源を共有する圏域内の市町間及び圏域間の相談支援体制等の連携・調整
  - ・県が設置する圏域自立支援協議会、兵庫県障害者自立支援連絡協議会、兵庫県障害者権利擁護センター及び障害児等療育支援事業への参画
- 2 市町相談支援体制の後方支援
  - ・市町等の相談支援体制等（地域自立支援協議会・基幹相談支援センター等機能強化事業・成年後見制度利用支援事業・障害者虐待防止対策支援事業等）の構築・運営に必要な助言・指導及び情報提供
  - ・市町職員・相談支援従事者・療育従事者等の資質向上を図るための研修事業
- 3 上記のほか、本県の相談支援体制等の構築・充実に資する業務
  - ・相談支援従事者初任者研修・現任研修等の内容検討への参画（相談支援従事者指導者養成研修（国研修）への参加を含む）
  - ・ひょうご障害者福祉プラン・兵庫県障害福祉計画の改定に当たっての助言・指導
  - ・その他、必要と認められる業務

上記の内容について以下の通り事業を実施した。

件数

区 分		助言・指導の区分			合 計
		相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	
相談関係	① 指定相談支援事業所従事者	88	7	83	178
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	35	6	23	64
	③上記以外の相談支援関係者 (例:障害者相談員、民生委員等)	14	2	24	40
④保健・福祉関係者(市町職員含む)		24	3	10	37
⑤教育関係者(市町職員含む)		83	1	1	85
⑥労働関係者		6	0	0	6

⑦企業等	0	0	0	0
⑧障害福祉サービス事業者等	5	9	7	21
⑨その他	4	1	67	72
⑩障害者本人	0	0	0	0
⑪障害者の家族等	5	1	1	7
合 計	264	30	216	510

#### 相談支援体制等の構築・充実にに向けた独自の取組

昨年度まで実施してきたプロジェクト「サービス等利用計画に沿って支援ができる仕組み作りをする。その中で、計画相談を実施する事業所の確保を図り、またサービス等利用計画の評価方法を確立する」の検証を行うために、北播磨障害者（児）地域自立支援協議会の運営会議等の場で、計画相談の進捗状況について各市町に状況を確認するとともに、計画の作成にあたってどのような工夫を行ってきたかを確認していった。ただ、市町によって格差が生じてしまっているのが現状である。

圏域の市町の共同設置で進めてきた、北播磨障害者（児）地域自立支援協議会については、西脇市、三木市が独自で協議会を立ち上げ、その他の市町についても単独で協議会を設置する方向で進めることができている。28年度・29年度ですべての市町で協議会が立ち上がることとなっている。

また、昨年度より継続して取り組んできた北播磨圏域内のすべての福祉サービス事業所を1冊のファイルにまとめた「きたはりマップ」が、北播磨圏域の各市町の委託相談支援事業所を中心に作成することができ、各事業所に配布することができた。

#### 相談支援体制等の構築・充実にに向けた課題・今後必要となる取組

昨年度からの継続となるが、各市町において基幹相談支援センターの設立を念頭に置いて取り組んでもらえるような働きかけをしていく必要があると感じている。そのためには、各市町の担当者と協力しながら、各市町で相談支援事業所ができるだけ多く立ち上がっていくような工夫をしていくことも考えていく必要があると感じている。

また、自立支援協議会については、各市町での立ち上げを視野に入れた形で、広域で検討するテーマと各市町で協議する事項についての整理を行っていくことが28年度に取り組んでいく課題となっていくと思われる。この件については、新たなプロジェクトを立ち上げて取り組んでいくことも必要ではないかと考えている。

## 障害児等療育支援事業

ゆたか会スタッフを必要に応じて配置し、主に北播磨圏域在住の「知的障害児・者」「身体障害児」「重症心身障害児・者」とその家族の方々に対して「訪問療育等指導事業」「施設支援一般指導事業」の2事業を実施。

## 在宅支援訪問療育等指導事業

事業実施件数(A+B) I		400件		事業委託件数		400件			
再委託先実施件数 II		件							
合計 I+II		400件		(うち再委託件数		件)			
<b>巡回相談従事職員の状況</b>									
職種	施設長	医師	看護師	理学療法士	作業療法士	指導員	保育士	その他	
(実人員) 延従事件数	( 人) 件	( 1人) 5件	( 人) 件	( 2人) 86件	( 1人) 57件	( 1人) 12件	( 2人) 45件	( 3人) 30件	
計	実人員 ( 10人)			延従事件数		235件			
<b>家庭巡回相談対象障害児(者)の障害種別</b>									
区分	身体障害児				知的障害児(者)		重症心身障害児(者)		その他
	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上	障害児
(実人員) 延相談 件数	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 1人) 12件	( 11人) 85件	( 23人) 115件	( 人) 件
計	実人員 ( 35人)				①延相談件数 212件				
<b>地域巡回相談実施か所種別</b>									
区分	保育所	幼稚園	学校	作業所	施設	行政機関	その他	計	
(か所) 開催数	(か所) 回	(か所) 回	(1か所) 6回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	
<b>地域巡回相談対象障害児(者)の障害種別</b>									
区分	身体障害児				知的障害児(者)		重症心身障害児(者)		その他
	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上	障害児
(実人員) 延相談 件数	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 3人) 6件	( 1人) 12件	( 人) 件	( 人) 件	( 3人) 5件
計	実人員 ( 6人)				②延相談件数 23件				
<b>A 巡件相談事業実施件数 (①+②) 235件</b>									
<b>健康診査従事職員の状況</b>									
職種	医師	看護師	知的障害者福祉司	保健婦	その他	計			
(実人員) 延従事件数	( 人) 件	( 3人) 165件	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件	( 人) 件			
区分	健康診査対象者の障害種別			健康診査の内容					
	重度知的障害者	重症心身障害者	計	健康診査・保健指導	生活指導・介護指導	その他相談指導	計		
(実人員) 延健診件数	( 人) 件	( 35人) 165件	( 35人) 165件	( 35人) 165件	( 人) 件	( 人) 件	( 35人) 165件		
<b>B 訪問による健康診査 延健康診査件数 165件</b>									



### 施設支援一般指導事業

事業実施件数（各棄Aの計）		I	120件		事業委託件数					120	件
再委託先実施件数（各棄Aの計）		II	件								
合計		I+II	120件		(うち再委託件数						件)
従事職員 の 状 況	職 種	施 設 長	医 師	看 護 師	理学療法士	作業療法士	指 導 員	保 育 士	そ の 他		
	(実人員)	(人)	(人)	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	(人)	(1人)		
	延従事件数	件	件	2件	3件	1件	75件	件	51件		
	計	実人員 (6人)		延従事件数 120件							

### 加西市障がい児タイムケア事業

加西特別支援学校の小学部～高等部在籍の児童について、放課後および長期休暇期間の預かりを実施。  
(利用にあたっては保護者が就労している等の条件あり)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍者数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	
開所日数	20	18	22	21	19	19	21	19	19	19	20	22	239
延利用者数	158	151	168	175	155	158	162	143	156	135	157	166	1884

### 西脇市障害児学童保育事業

北はりま特別支援学校の小学部～高等部在籍の児童について、放課後および長期休暇期間の預かりを実施。  
(利用にあたっては保護者が就労している等の条件あり)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍者数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
開所日数	25	23	26	25	22	23	24	23	22	22	24	26	285
延利用者数	177	163	188	180	161	174	184	165	177	165	158	204	2096

## 発達障害者支援センター ブランチ事業

「ひょうご発達障害者支援センター クローバー加西ブランチ」

自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）などの発達障害をもつ本人、家族、関係施設、関係機関のスタッフなどに対して支援を行なう。より身近な地域で相談・療育や情報提供を総合的に行う。

平成 27 年度 発達障害者支援センター事業実施状況報告					
					表1
センター名	ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西ブランチ	所在地		兵庫県加西市北条町東高室959-1	
事業開始年月日	平成17年6月1日				
法人名 (施設名)	社会福祉法人 ゆたか会	再委託の場合の再委託先法人名 (施設名)			
職員の状況		常 勤		非 常 勤	
		医師	医師以外	医師	医師以外
		専 任	0人	2人	0人
		兼 任	0人	0人	0人
夜間・緊急時対応施設名 (複数ある場合は全て記載)					
事業内容					実績
1. 相談支援・発達支援 (* 下記2. を除くすべてのケース)	(1) 実支援人数・延支援件数			実支援人数	204 人
				延支援件数	919 件
	(2) 医学的診断、心理学的判定			実診断人数	0 人
				実判定人数	21 人
	(3) 夜間等の緊急時保護、行動障害による一時保護			実支援人数	0 人
				延支援件数	0 件
(4) 相談支援・発達支援に伴う情報共有等(調整会議)					69 件
(5) 相談支援・発達支援に伴う関係機関職員への助言(機関 コンサルテーション)					34 件
2. 相談支援・就労支援 (* 就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1) 実支援人数・延支援件数			実支援人数	16 人
				延支援件数	68 件
	(2) 相談支援・就労支援に伴う情報共有等(調整会議)			18 件	
	(3) 相談支援・就労支援に伴う関係機関職員への助言(機関 コンサルテーション)			2 件	
3. 地域住民等に対する普及啓発	(1) パンフレットの作成等			0 件	
	(2) 地域住民向け講演会の開催等			0 回	
4. 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	(1) センター主催又は共催で企画した研修			実施回数	10 回
				延参加人数	184 人
	(2) 外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)			実施回数	81 回
				延参加人数	1013 人
	(3)((1)及び(2)の再掲)教育関係者との合同 研修会			実施回数	28 回
				延参加人数	399 人
5. 関係施設・関係機関等の連携	(1) 連絡協議会の開催状況			実施回数	4 回
	(2) 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況			参加回数	17 回
	(3) 他の協議会への参加状況			参加回数	14 回
6. 職員の研修派遣状況				参加回数	6 回

